

## 入札ボンド

「第三者による経営力の判断」が目的

# 保証会社、現金保証認めず

## 東日本 高速 入札前価格交渉を公告

東日本高速道路は、7月1日以降に入札手続きを開始する工事で導入する入札ボンドについて、金融機関の入札保証が損保会社の入札保証保険に

限定することを明らかにした。「第三者による経営力の判断」を目的として、入札前に見積書に記入することから、保証会

社による保証や現金の準備は認めない。また、1

日以降に入札手続きを開始する工事のうち、WT O（世界貿易機関）対象の一般競争入札工事で導入する。「契約辞退や契約解除がされると事業進捗に著しい支障が認められる工事」も導入対象とする。入札保証の付保割合は入札金額の5%。入札時に入札書に同封してボンドの提出を求める。導入の目的として同社に懸念される不良不適格業者の参入の抑制、履行能力のある企業による適正な競争環境の確保、落札後の契約辞退の抑制、履行途中での倒産回避などを挙げている。

「キャッシュベースの保証などではなく、『第三者による経営力の評価』で工事履行の裏付けをもらう」（同社広報室）とし、保証会社と現金での保証は認めない。

入札前価格交渉方式については、入札参加希望者に見積書の提出を求め、単価項目ごとに技術的に交渉する。その後、6月1日に同方式で公告する工事は、関東支社の「関東支社管内ETC設備増設工事」と「同予告無線設備工事」の2件。

6月1日に同方式で公告する工事は、関東支社の「関東支社管内ETC設備増設工事」と「同予告無線設備工事」の2件。